

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199		飛騨あさひイベント開催事業	担当課	朝日支所 基盤産業課			内線
	枝番							3632
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		1	<p>積極的な観光振興策を実施します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか (意図)	地域資源を最大に生かした観光イベントの開催により、住民とのふれあい、交流人口の増大を図ることが出来る。		
概要	事業の実施手法 (手段)	美女高原水芭蕉祭り、秋神川アマゴ釣り大会、すずらん祭り、ドスコイ祭り、クリスタルライブinあさひ、氷点下の森氷祭り（事業実施団体への負担金）		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		美女高原水芭蕉祭り、秋神川アマゴ釣り大会、すずらん祭り、ドスコイ祭り、クリスタルライブinあさひ、氷点下の森氷祭りの6イベント					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	イベント回数		回	目標値	6	6	6
					実績値	6	6	-
		算出根拠等	イベント開催数		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	交流人口		人	目標値	9,178	9,200	10,000
					実績値	8,678	6,479	-
		算出根拠等	イベント開催時の入込客数		達成率(%)	95	70	-
	成果指標	自己負担金率		%	目標値	15.0	17.0	20.0
					実績値	16.1	18.0	-
		算出根拠等	年度実績報告書		達成率(%)	107	106	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
・地域の風土を活かしたイベントとして住民の憩いの場、交流の場として賑わいを取り戻しつつある。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			12,498	12,500	10,100		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		12,498	12,500	10,100		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		1,440	1,929	1,010		
		受益者	入込客 (B)	8,678	6,479	10,000		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・四季折々の地域風土を活かしたイベントだけに住民の憩いの場・交流の場であり、体験型の内容については良い反響である。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・伝統ある集客率の高いイベントを実施することにより、地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・東日本大震災の影響により、集客数が落ち込み十分とは言えないことから各種内容を工夫する必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・限られたイベント負担金の中で必要最小限の経費で取り組んでいる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・地域資源を活かした観光イベントの実施により、地域住民の意識の高揚は図られたが、集客の減少など、自主開催事業に向けた事業内容にする課題がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）</p>	<p>・来客者の関心が高まるような仕掛けづくり等、市を挙げたイベントに発展させるために具体的な取り組みを検討する必要がある。</p>
---	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主体の事業とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・合併前から実施している行事、イベントについては、観光イベント運営委員会、道の駅イベント運営委員会、氷祭り運営委員会、飛騨あさひ旅館組合により今後の方向性について精査を行い、継続について十分検討する必要がある。
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・事業の必要性や効果を考慮しながら、自主開催へ向けた事業内容とする様に検討して行く。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<p>・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。</p> <p>・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。</p>								

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62199		ふるさと体験事業 (グリーン・ツーリズム推進)	担当課	朝日支所 基盤産業課			内線		
		枝番							3632		
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事			
	款	6	商工費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
	項	2	観光費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業			
	目	1	観光振興費				D	その他事業			
根拠計画			地域振興計画								
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズム(自然に親しむ旅行)に加え 温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム(健康に良い旅行)、 自分だけの製品をつくるクラフトツーリズム(モノづくりの旅行)など、地元の 産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	不特定多数
	どうい状態にしたいのか(意図)	・都市住民との心の交流を通じてグリーン・ツーリズム活動を推進し地元産業の潤いと高齢者・女性等の生きがいづくりを図る。		
概要	事業の実手法(手段)	・龍巖山ミニ登山、御岳登山と自然観察会、すずらん大根と野菜のオーナー、子ども農山漁村交流プロジェクト事業に向けた調査・研究・実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・龍巖山ミニ登山、御岳登山と自然観察会、すずらん大根と野菜のオーナー、子ども農山漁村交流プロジェクト事業					
	指標名			単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	体験イベント回数		回	目標値	4	4	4
					実績値	4	4	-
		算出根拠等	イベント開催数		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	体験イベント参加者		人	目標値	400	500	700
					実績値	620	635	-
		算出根拠等	イベント開催時の入込客数		達成率(%)	155	127	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
・地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルが出来つつある。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			800	800	800		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		800	800	800		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		1,290	1,260	1,143		
		受益者	参加者 (B)	620	635	700		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・集客の手段として自然環境を利用したグリーン・ツーリズムへのニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・グリーン・ツーリズム推進事業により、市民と行政が一体となり交流人口の拡大を図っており、地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である。 ・今後体験型交流事業を推進していくうえでは、幅広い民間関係者に参加していただけるよう検討する必要がある。	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・体験交流の利用人数は増加傾向にある。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	A	・地元産業と一体となった、体験型交流事業が行われた。	
			B (1)	ある程度効果があつた			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			
合計			9 / 10		→	100点換算	90 点

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）</p>	<p>・グリーン・ツーリズムにむけた取り組みの認知度は高まっているが、体験者の関心が高まるような仕掛けづくり等、市を挙げた事業に発展させるために具体的な取り組みを検討する必要がある。</p>
--	---

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主体の事業とすべく、補助金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小して行く必要がある。
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・地域内外への紹介をインターネット・ブログ等を活用し、体験者の関心が高まるような仕掛けづくりを行う。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・事業の必要性や効果を考慮しながら、持続可能となるよう運営主体の強化を図る必要がある。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、負担金と行政の関与を段階的に縮小する必要がある。								

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		スズランカップJrクロスカントリー大会開催事業	担当課	朝日支所 地域振興課			内線		
		枝番							3610		
予算	会計	1	一般会計			特別予算の 位置付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費					B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	5	保健体育費					C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	体育総務費					D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画									
市長公約											

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び競技選手	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・県内唯一のジュニア対象のクロスカントリー大会を開催し競技力向上と青少年の健全育成を目指す		
概要	事業の実施手法 (手段)	期 日 平成24年2月第2日曜日 会 場 鈴蘭高原クロスカントリーコース 部 門 小学生・中学生・高校生の部(男女) 内 容 クロスカントリースキー(フリー)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		期 日 平成24年1月22日(日) 会 場 鈴蘭高原クロスカントリーコース 参加者 小学生(男子15人・女子13人)中学生(男子11人・女子7人)高校生の部(男子13人・女子4人) 計63人 内 容 クロスカントリースキー(フリー)						
	指標名			単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	スズランカップクロスカントリースキー大会の実施			回	目標値	1	1	1
						実績値	1	1	-
		算出根拠等	年一回			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	スズランカップクロスカントリースキー大会の実施			人	目標値	50	55	55
						実績値	61	63	-
		算出根拠等	参加者数			達成率(%)	122	115	-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
補足事項									
・県内でジュニアの競技会が行われる唯一の大会であり、競技者の育成、競技力向上が図られている。									
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)				500	500	500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
		一般財源				500	500	500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)				8,197	7,937	9,091	
		受益者	ジュニアクロスカントリー競技者 (B)			61	63	55	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・県内で開催される小学生から高校生までの大会は、当大会のみであり、関係者からのニーズは高い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・実行委員会による実施となっているが、競技力向上、選手育成には競技団体が実施することが望ましい
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・県内唯一のジュニア対象の大会として、市内のみならず、県内、県外の選手の活躍の場となっている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・同時期に当地で開催される大会との経費分担によりコスト縮小に取り組んでいる
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・地域の特徴を活かしたスポーツの推進により、競技力の向上と大会開催による地域の住民の大会運営協力により絆の強化と活力の向上が図れてる
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	<p>・市内でも競技者数が少なく、全市民を対象とする大会ではない。</p> <p>・地域活性化の施策として実施するため、地域の実行委員会による大会運営であるが競技団体の協力は欠かせない。今後競技団体が運営母体となり公認レースとなるよう図り、近県や全国から多くの参加の増加を図る必要がある。</p>			

<p>(参考) H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会開催誘致のあり方についての検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。
--------------------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・県外の競技団体へ大会参加の案内を行う。
---------------------	----------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・大会の規模を拡大し参加者の募集を広範囲に行い、宿泊者数の増加が見込める地域の特色を活かし活性化に繋がる大会とする。								

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	・特例期間終了を見据え、行政の関与を段階的に縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、スポーツ大会誘致のあり方について検討する必要がある。					

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94199		花いっぱい運動推進事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3634
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	社会教育総務費				D	その他事業
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		該当なし						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町)	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・花いっぱい運動に参加する町内会、地域社会教育団体などを広く募集し、希望する団体などに花苗を配布し、朝日町内の景観保全を図る。 ・果斷づくりを通して、地域の子供から高齢者まで一体となったコミュニケーションの場とする。		
概要	事業の実施手法 (手段)	花苗、チューリップの球根を希望する団体などへ配布する		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・サルビア 25TR ・マリーゴールド(黄) 30TR ・マリーゴールド(橙) 20TR ・アゲラタム 26TR ・ケイトウ 27TR ・日々草 5TR ・チューリップ球根 3,750個 希望する団体などへ配布					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	参加団体		団体	目標値	21	21	21
					実績値	21	23	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	110	-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			601	604	646		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		601	604	646		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		28,619	26,261	30,762		
		受益者	各団体 (B)	21	23	21		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	合併以前から実施しており数十年以上の実績がある。参加団体は花壇作りコンクールなどにも積極的に応募しており、依然としてある程度のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	花苗は物品購入している。事業主体を見直す必要はない。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	参加団体は事業計画を上回り、成果指標の目標を十分に達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	花苗、球根の種類や個数を見直し、より効果的な事業となるよう取り組んだ。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	総合計画では、四季の花々で彩られた親しみある地域個性の創出を目指しているため、その一貫として重要な事業になっており、朝日町内の景観保全に効果がある。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	ニーズを理解し、花の種類や数を検討する。			

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。</p>
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	育てやすく丈夫な品種の苗に変える。
---------------------	-------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	内容の見直しを図り、より一層充実した活動を実施する									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<p>・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。</p> <p>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。</p>									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699		ひだ朝日伝統文化祭助成事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線		
		枝番						3634		
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6	文化振興費				D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画								
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ◎芸術文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町民)	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・伝統芸能、伝統工芸の貴重な地域文化を後世に残すと共に、広域的なイベント開催により、地域文化への理解と連帯感の熟成を図る。 ・地域芸能、工芸を一同に集める発表会、展示会の開催により、地域間交流を図る。		
概要	事業の実施手法 (手段)	「ひだ朝日伝統文化祭」を毎年、秋季に開催する。 事業実施主体 朝日地区社会教育推進委員会		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		伝統芸能発表、工芸品の展示と児童生徒の発表等により地域文化への理解が深まった。					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	来場者(参加者)		人	目標値	500	500	500
					実績値	500	500	-
		算出根拠等	来場者集計より		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
	歳出 (千円) (A)			815	824	624	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			15	24	24
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			800	800	600
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			428	436	333
		受益者	市民(朝日町民) (B)		1,904	1,890	1,873

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	例年、盛況に開催されており、地域等の文化芸能に触れる貴重な場となっている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	事業主体は朝日地区社会教育推進委員会で、例年、効率的、効果的な事業が行われている。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	来場者数は事業計画どおり推移しており、成果指標の目標を十分に達成している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	毎年、実施後に関係者による意見交換を行い、常に効果的・効率的な開催を目指している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	地域文化振興事業は、いずれも総合計画、市長公約に位置づけられ、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出を図る上で効果が出ている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）</p>	<p>より効率的な事業の開催をするための見直し。</p>
---	------------------------------

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全市的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
---	--

4 今後の方向性(Action)

<p>課題等に対する 今年度の対応状況</p>	<p>コストの縮減のために効率的な事業の開催の見直しを行っている。</p>
-----------------------------	---------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	内容の見直しを図りながら、より一層充実した開催を実施する。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<p>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</p> <p>・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。</p>									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699		地域文化振興事業費	担当課	朝日支所 地域振興課		内線	
		枝番						3634	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6	文化振興費			D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ◎芸術文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつなげる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町民)	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	優れた芸術文化に接する機会を創出し、市民に心豊かな生活を営む場を提供し、魅力ある地域づくりを創造すると共に、地域の文化団体における自主事業開催のための基礎づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	毎年、講演会や演奏会などの芸術観賞を開催する。24年度 7月・12月に開催予定。 事業実施主体 朝日地区社会教育推進委員会		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		講演会「どげんかせんといかん！この日本」 講師 東国原 英夫 氏 住民に活力と夢を与えることができ、創造性や豊かな感性を育むことができた。					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	来場者		人	目標値	300	300	300
					実績値	440	350	-
		算出根拠等	来場者集計より		達成率(%)	147	117	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			2,365	1,812	1,700		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		365	212	200		
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		2,000	1,600	1,500		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		1,251	971	911		
		受益者	朝日町民 (B)	1,890	1,866	1,866		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	例年、盛況に開催されており、優れた芸術文化に触れる貴重な場になっており、市民を楽しみにしている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	事業主体は朝日地区社会教育推進委員会で、例年、効率的、効果的な事業が行われている。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	優れた芸術文化に触れる機会を創出するため、関係機関との連携を深め、有効な活動になっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	毎年、実施後に関係者による意見交換を行い、常に効果的・効率的な開催を目指している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	A	地域文化振興事業は、いずれも総合計画、市長公約に位置づけられ、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出を図る上で効果が出ている。
			B (1)	ある程度効果があつた		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）	より効率的な事業の開催をするための見直し。			

<p>(参考) H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全市的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
--------------------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

<p>課題等に対する 今年度の対応状況</p>	<p>コストの縮減のために効率的な事業の開催の見直しを行っている。</p>
-----------------------------	---------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	内容の見直しを図りながら、より一層充実した開催を実施する。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799		市指定文化財保存事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3640
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費			D	その他事業	
根拠計画			市指定文化財保存計画 地域振興計画					
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値がある有形無形の伝統文化や、文化財などの資源を保存活用する。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	天然記念物、有形文化財等は貴重な国民的財産であり、保護管理に努め後世に伝えていく大切な責務を持っている。説明板等を設置し、その重要性和意識啓蒙を図る。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・指定文化財石柱設置 ・説明看板設置 ・乗鞍登山道石仏祠設置		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・前年からの事業を継承し、石柱を設置 ・腐食の著しい説明板を更新				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	石柱設置数	個	目標値	5	5	5
				実績値	5	5	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成果指標	対象文化財に占める設置済み石柱の比率	%	目標値	100	100	100
				実績値	49	63	-
		算出根拠等	設置済石柱/対象文化財	達成率(%)	49	63	-
	活動指標	説明看板設置数	個	目標値		1	1
				実績値		1	-
		算出根拠等		達成率(%)		100	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項							
・石柱については、指定文化財のうち有形文化財等を対象として設置しており、継続事業として所有者(管理者)への認識が高まっている。 ・登山道の石仏発掘調査は朝日村時代より実施しており、公募等により広く周知され保護活動に取り組まれている							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
	歳出 (千円) (A)			850	938	1,750	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	
		一般財源			850	938	1,750
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			9	10	19
		受益者	市民(4/1現在)	(B)	93,822	93,312	92,861

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・石柱等の設置により、文化財保護や継承に対する市民意識の向上につながっている
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・文化財の保護と意識啓蒙を図る観点から、全市的な遺産として捉え保存活用していくべきもの
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・継続事業として計画に沿った実績となっており、目標値は概ね達成されている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・石柱や看板の作成設置については入札で行い経費削減に取り組んでいる
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・歴史的、社会的に価値ある文化資源を再認識し、保存活用していくために必要である ・事業実施後の活用方法について検討する必要がある
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		9 / 10		→	100点換算	90 点

<p>分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保存及び活用を図るために実施する事業として定着しつつあるものの、文化財に対する意識の向上を図るうえでは、より多くの地元町民や市民を巻き込み関心が高まる仕掛けづくりを検討する必要がある ・石柱については対象文化財の損傷や盗難につながる恐れもあることから、設置の妥当性を検証する必要がある
--	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>石柱等説明看板の設置は年次計画に基づき実施しているが、その意義・目的を広く周知する必要がある</p>
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	貴重な文化遺産として後世に継承していく責務から、その必要性や妥当性を考慮し継続事業として取り組んでいく
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	対象文化財の見直しを行い、有効利用が図られるよう検証を行う									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・平成26年度までに完了できるよう計画的にすすめる必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		スポーツフェスタ助成事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3610
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		該当なし						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域内市民対象	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・余暇の時間増大により物質的充足感より心の豊かさなど精神的な充足感が強く求められるようになり、日常生活に定着した活動により参加しやすい軽スポーツの大会を開催することにより地域の活性化につなげたい		
概要	事業の実施手法 (手段)	市全体の行事として、全に一斉に各地域で開催される 期 日 10月上旬 会 場:朝日小グラウンド、体育館 対象者 朝日支所地域内の小学生から高齢者まで 内 容 グランドゴルフ、ダーツ、ペタンク、輪投げ、キックボーリング、ストラックアウト、ウォークラリー等		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		期日：平成23年10月2日 会場：朝日小グラウンド、体育館 内容：ベタンク、ダーツ、グラウンドゴルフ、その他軽スポーツ 参加者：100名					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	スポーツフェスタの開催		回	目標値	1	1	1
					実績値	1	1	-
		算出根拠等	年一回	達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	スポーツフェスタの開催		人	目標値	150	150	150
					実績値	100	100	-
		算出根拠等	参加者数	達成率(%)	67	67	-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項								
・子供から高齢者までが一緒に集い楽しみながら健康作り、地域の絆が気づける事業である								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			150	150	150		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		150	150	150		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		1,500	1,500	1,000		
		受益者	地域住民 (B)	100	100	150		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	C	・市民の生活形態、趣向性が多様化している中で、子供や若者の参加が少なくなりつつある ・無くても支障のない事業である
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	行政が行うべき市民のスポーツ推進、健康維持に必要な事業である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	C	・高齢者以外の成人市民や子供の休日の過ごし方にマッチしていない行事であり、参加者が高齢者に偏り成果指標の達成は順調ではない
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・不足する用具を他地域との連携により融通しあい、コスト削減に努めている
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・軽スポーツを通じて子供から高齢者までがふれあう事が出来る数少ない行事であるため地域の絆を高めるための重要性は高い
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・参加者が子供、高齢者が個人で参加できる種目が主体であるため、グループ、地域で参加できる種目を加え町内会で取り組める内容にする必要がある。			

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
---	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	<p>軽スポーツを通じて地域市民の精神的、肉体的リフレッシュの効果を期待し、市民の期待する事業として計画を再検討する</p>
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	軽スポーツを通じて地域市民の精神的、肉体的リフレッシュの効果を期待し、市民の期待する事業として計画を再検討する								

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	H24完了予定
	<p>・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。</p> <p>・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。</p>					

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		21999		地域おこし協力員活動事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3611
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2	総務費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1	総務管理費			○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9	企画費				D	その他事業
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		2	観光まちづくり持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者を始め、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日支所地域全住民	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	山村地域の活性化に意欲ある都市住民(若者)を「地域おこし協力員」として委嘱し、地域で活動する団体等と協働して地域おこし活動に従事するとともに、外部からの視点を活かした地域資源の活用や地域振興策を提案・実施することで地域の活性化を図り、地域力の維持・強化に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	都市部の視点を活かすことを基本として、主に次の地域活動の核となる団体と協働して取り組む。 ・地域資源の調査・整理 ・地元農産物の新しい活用法の提案と販売促進活動 ・地元住民の知恵、技を活かした商品開発 ・グリーンツーリズムの振興		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・NPO「元気な里ひだあさひ」との協働により各種イベント、グリーンツーリズム等において中心スタッフとして活動した。 女川小学校の受け入れについては顕著であった。 ・地域情報誌「あさひの絆」発行 ・秋神の家の維持管理、受け入れ者の対応					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	地域おこし協力員	人	目標値	1	1	1	
				実績値	1	1	-	
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	-		
	活動指標	朝日町情報誌「あさひの絆」 月1回発行	回	目標値	5	12	12	
				実績値	5	12	-	
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	-		
	活動指標	グリーンツーリズム開催回数	回	目標値	20	25	30	
				実績値	20	25	-	
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
補足事項								
・年間を通したグリーンツーリズムのメニュー作成から実施にいたるまで、また、支所地域で実施される各種イベント等にはほとんど参画し、中心的役割を果たした。 ・イベント等に関しては、地域情報誌「あさひの絆」により地域住民に周知とともに地域の情報を提供した。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額		H23 決算額		H24 予算額	
	歳出 (千円) (A)		1,533		2,498		2,880	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		0		0		0
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0		0		0
		一般財源		1,533		2,498		2,880
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		805		1,322		1,538
		受益者	朝日支所地域全住民 (B)	1,904		1,890		1,873

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・観光客の減少により旅館民宿の利用者も減少し、地域の関係者はそれぞれ知恵を絞っているが、個々の対応に追われているため、全体を見渡す施策が行き詰まっている中、NPOを通じての活動に期待は大きい
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・NPO法人が設立され、地域おこしの母体は整備されたが、人材・財源が確保されない状況であり、協力員の必要性は高い
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・NPOと連携し年間を通じた活動が行われており、地域住民との交流を頻繁に行うと同時に、情報収集を行い定期的に情報誌を発行している。 ・地元食材を活用した特産品開発については現在進行中であり、成果として大きいものはない
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・限られた予算(報酬、燃料費、賃借料、保険料)で工夫して活動に取り組んでおり、コストはおおむね適正である。 ・NPOの事務等に専門に携わる人材がなく、協力員の存在は大きな役割を担っている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・NPOが地域おこしの母体となり観光関係、商業関係等各種団体の枠を超え、地域活性化の取りまとめ窓口となり「かわらべ(シコクビエ)」「わらび粉」「つけ物」等の栽培や特産品生産に着手している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）</p>	<p>・地元農産物の新しい活用法の提案と販売促進活動、商品開発にいての成果が特出する物がないため、品目の絞込みを行い生産ラインの確立が必要である。</p>
---	---

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>設置年度終了後の地域のあり方の検討が必要である。</p>
---	---------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・地域活性化のための特産品開発及び地元農産物の販路拡大については、
---------------------	-----------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H24完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H24完了予定

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		21999		朝日地域再発見事業	担当課	朝日支所 基盤産業課		内線	
		枝番						3632	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費			D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域内外の人	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか (意図)	・地域力向上のため、地域の魅力の再発見及び、地域資源の発掘を行う。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・新たな特産品開発(四国びえの商品・猪肉加工・食感いい餅)を、地域おこし協力員との協働を得ながら、研修・研究を通して商品の創作を図る。 ・既存施設や当地区ならではの氷を基調した魅力ある体験メニュー、四季の花々などを紹介した資料を作成。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・しこくびえ原材料の安定生産・製品開発(しこくびえうどん、こめっこ餅)、猪肉(ハンバーグ、和風ソース、しぐれ煮) 収集した素材データの編集・構成(データベース化)地域素材のマップの作成。					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	成果指標	メニューの数		個	目標値	5	5	5
					実績値	3	3	-
		算出根拠等	実績	達成率(%)	60	60	-	
	成果指標	商品化数		個	目標値	1	3	2
					実績値	0	3	-
		算出根拠等	イベント開催時の入込客数		達成率(%)	0	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
・地産地消に向けた特産品として認知度が高まっている。 ・貴重な地域の素材紹介出来る資料作成(パンフレット)								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			982	900	1,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		982	900	1,000		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		10	10	11		
		受益者	市民(4/1現在) (B)	93,822	93,312	92,861		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域の地産地消となりうる特産品開発と独自のパンフレットを作成することにより、多くの人に地域の魅力を知ってもらう戦略的な誘客宣伝へのニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・地域再発見事業により事業者との協議を進めながら、市民と行政が一体となり特産品開発や地域の素材の紹介をする資料作成を行うことにより、地域おこしを図る上で市が参画することは妥当である。 ・成果を検証したうえで、次年度以降も成果が生かされるしくみづくりが必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・特産品の開発により商品化した品物の知名度は上がっているが、1店舗のみの販売であるため、今後複数の販売所の確保について検討する必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・特産品開発や素材の確認編集により、地元の意識の高揚が図れ、地域力向上ができた。今後は販売ルートの確保とPR方法が課題となる。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）</p>	<p>・地域特有特産品の商品化に伴い、健康食品としての効能やおいしく食べていただく為の説明書の工夫など、消費者の関心が高まる仕掛け作りを検討する必要がある。</p>
--	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>・成果の有効活用について検討する必要がある。</p>
---	-------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・地域内外への紹介をインターネット・ブログ等を活用し、消費者の関心が高まるような仕掛けづくりを行う。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H24完了予定
	・事業最終年度である為必要性や成果を検証しながら、成果が生かされるための仕組みづくりが必要がある。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H24完了予定

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		51399		生活環境保全対策事業	担当課	朝日支所 基盤産業課		内線
		枝番						3631
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農業水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・有害鳥獣対策が緊急の課題であるため、駆除と防御事業を強化し、併せて駆除鳥獣の加工販売など活用方策について具体的に取り組みます					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の当該事業に参加している9町内会	対象者数	344 件
	どういう状態にしたいのか (意図)	有害鳥獣による被害を防止するため、集落の周囲に進入防止柵を設置し、安心して暮らせる地域づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法 (手段)	有害鳥獣進入防止柵等を設置するための資材費購入等に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		9町内会において、延長5,878.4mの有害鳥獣進入防止柵等を設置した。					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	成果指標	有害鳥獣進入防止柵設置延長		m	目標値	1,677	5,878	5,400
					実績値	1,677	5,878	-
		算出根拠等	要望による年次計画		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額
	歳出 (千円) (A)			2,998	9,999	10,000
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
		一般財源		2,998	9,999	10,000
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		26,768	29,067	47,847
		受益者	事業参加9町内会の世帯数 (B)	112	344	209

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	猪等の有害鳥獣による農作物等の被害は年々増加傾向にあり、市民ニーズは急増している。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	類似の国庫補助事業はあるが、農地が対象であり、受益面積に制約があるため、ニーズは極めて低い。当該事業は、あくまでも集落を囲んで生活環境を守ることが目的であり、独自の事業である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	当該事業における年次計画に基づき実施している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	有害鳥獣進入防止柵に使用する資材については、品質・性能・耐久性等を精査し、より効果のあるものを選定するよう、町内会等の事業実施主体に周知している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	有害鳥獣対策における防御事業の強化は、市長公約に位置付けられ、緊急の課題となっている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）</p>	<p>有害鳥獣進入防止柵の設置作業については、各町内会の出役による施工となっている。しかし、少子高齢化の進展による後継者不足から、年々各町内会による施工が困難となりつつあるため、実施方法の見直しを検討する必要がある。</p>
---	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>一般予算によるバランスを配慮し実施する必要がある。</p>
---	----------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	事業実施町内会に対し、施工期間を従来より1～2ヶ月延長して計画するようお願いしている。
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	連合町内会等を通じ事業実施に向けた要望を広く把握し、併せて、事業に消極的な町内会等に対し積極的に働きかける。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・一般予算とのバランスに配慮し実施する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62499		乗鞍・御岳登山道管理事業	担当課	朝日支所 基盤産業課		内線
		枝番						3632
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工課			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	来訪者(登山道)	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか (意図)	・来訪者が安全に自然に親しめるよう、乗鞍及び御岳の登山道の維持管理と環境整備を実施する。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・業務委託により、下層植物について登山道の刈払い等をこなう。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		乗鞍青屋登山道 6km刈払い					
	指標名			単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	委託業務回数		回	目標値	1	1	1
					実績値	1	1	-
		算出根拠等	年1回		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値			
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値			
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値			
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補足事項							
	・登山ルートを区切り年次計画を立てる。							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
		歳出 (千円) (A)			198	199	600	
		財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
			その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源			198	199	600			
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A/B)		2	2	6		
		受益者	市民(4/1現在) (B)	93,822	93,312	92,861		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・登山者からの安全・安心な通行に対してのニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・登山道の延長が長い為、維持保全管理を行うには市が参画することは妥当であるが、今後、地元関係者との取り組みについての検討が必要になる。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・登山者の安全確保には刈払い等による登山道の管理は必要であるが、植生の再生が速く、隔年の実施では道が不明瞭になり安全の確保が難しいため毎年実施する必要がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・初級登山道であるが、延長が長い為、経費の節約は難しい。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・登山道の刈払いにより、自然環境への配慮や環境整備が図られ、地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として全国専門誌に取り上げられる等効果があった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
分析・評価で明らかになった課題 （「A」評価にするために何が必要なのかを記入）	・登山道の延長が長い為、笹による荒廃地区を継続的に刈払いを実施する事が困難になって来ている、登山愛好者や地元関係者のボランティアの協働により環境整備が行えるような取組を検討する必要がある。			

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>・いくつかの地域で登山道整備があるが、今後は有効なもののみを選択していく必要がある。</p>
---	---

4 今後の方向性(Action)

<p>課題等に対する 今年度の対応状況</p>	<p>・安全に自然に親しめるよう環境を充実するため、事前に調査しポイントを業者に指示する。</p>
-----------------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・継続的に刈払いを実施することに、計画性を持たせおこなう。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、登山道整備の方針について検討する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		74699		担当課	朝日支所 基盤産業課			内線	
		枝番						3641	
美女性池浄化・美化保全事業				特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
予算	会計	1	一般会計		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	款	7	土木費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	項	4	都市計画費			D	その他事業		
	目	6	公園管理費						
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・観光まちづくりを維持可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	来場者	対象者数	12,000 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	・水生植物や草花を植生し、池の水の浄化や池周辺の景観美化を図り、合併記念公園にふさわしい美女ヶ池の姿を再生する。		
概要	事業の実施手法 (手段)	・浄化植物植栽 ・美化植物植栽		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・浄化植物9箇所(2㎡／箇所)植栽 ・美化植物71㎡植栽					
	指標名			単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	浄化・美化植物植栽面積		㎡	目標値		89	68
					実績値		89	-
		算出根拠等	植栽計画面積／実績		達成率(%)		100	-
	活動指標	樹木植栽本数		本	目標値			70
					実績値			-
		算出根拠等	植栽計画本数／実績		達成率(%)			-
	成果指標	利用者数		人	目標値		11,000	12,000
					実績値		8,500	-
		算出根拠等	公園来場者／年		達成率(%)		77	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			0	1,140	1,140		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,140	1,140		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			104	95		
		受益者	来場者 (B)	0	11,000	12,000		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・美女高原の自然資源を守るための事業であり、市民のニーズは高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市が指定する合併記念公園である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・平成23年度に新規採用した事業であり、美化に対しては成果があがっていすが、浄化に対しては成果があがるまでに時間を要する。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	・コストの妥当なラインが不明である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・観光資源の保全・保持に努めた。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）</p>	<p>・浄化については成果が出るまでに時間がかかるため、現時点では検証できない。</p>
---	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続については、事業効果を精査し実施する必要がある。 ・浄化については、H23年度に実施した浄化植物による効果の検証をし、対策を検討する必要がある。
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の対応方針を定める。
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・周辺全体に美化植物を植栽するには、成果を見ながら毎年行う必要がある。 ・浄化植物は池の浄化を図るために植栽するものであり、汚濁が解消するまで行う必要がある。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・事業の継続については、事業効果を精査し実施する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		42299		食油リサイクル事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線		
		枝番						3640		
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	4	衛生費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	清掃費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	2	塵介処理費			○	D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画								
市長公約		8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります。 環境保全に取り組みます。 ・地球温暖化の対策、生物多様性の保全活用など、環境保全は今を生きている全ての人々が取り組まなければならない重要な問題であるため、バイオマスの利活用や間伐材・林地残材製品の開発など環境改善につながる取り組みを支援します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	使用済み食用油を回収、精製処理し、リサイクル燃料として使用することにより市民のリサイクル意識の向上を図るとともに、地球温暖化対策を推進する		
概要	事業の実施手法 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭より排出される食用廃油を拠点施設において定期回収する ・回収廃油は処理施設で精製し、公用車燃料として活用する 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		廃油の定期回収と燃料の精製					
	指標名			単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	廃油回収量		L	目標値	2,500	2,500	2,500
					実績値	2,242	1,760	-
		算出根拠等			達成率(%)	90	70	-
	活動指標	燃料精製量		L	目標値	2,500	2,500	2,500
					実績値	2,240	2,000	-
		算出根拠等			達成率(%)	90	80	-
	成果指標	燃料使用量		L	目標値	2,500.0	2,500.0	2,500.0
					実績値	2,203.0	2,000.0	-
		算出根拠等			達成率(%)	88	80	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
	歳出 (千円) (A)				101	179	220	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			101	179	220	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			1	2	2	
		受益者	市民(4/1現在) (B)		93,822	93,312	92,861	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	リサイクル等、環境保全への取り組みは重要な課題であるが、回収量が減少傾向にあり市民意識の向上を図る必要がある			
			B (1)	ある程度のニーズがある					
			C (0)	ニーズが低い					
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	精製燃料は公用車での使用に限定されており、安定した需要は見込まれないのが現状 民間による回収ルート等が確率されつつあり、検討が必要			
			B (1)	一部見直しが必要である					
			C (0)	市が実施する必要性が低い					
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	一般家庭からの回収が減少しており、リサイクル意識の向上を図るとともに回収範囲等の拡大が必要			
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である					
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	回収及び精製はシルバーへ委託し、月1回拠点集積所での回収と需要に応じた精製業務を行っている			
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	B	精製燃料は公用車での使用に限定され、需要と供給の比率を考慮した事業展開が必要			
			B (1)	ある程度効果があつた					
			C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計			6	/	10	→	100点換算	60	点

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なかを記入）</p>	<p>廃食油の分別回収と再資源化は地球温暖化防止対策や環境保全の一環とした取り組みであるが、精製燃料の利用方法と回収方法の検討を要す</p>
---	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>回収及び精製は使用対象車両の燃料需要に伴った業務であり、目標としては概ね達成できたが、燃料の使用期間や回収廃油の保存期間に限りがあることから今以上の需給は見込めない</p>
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	一般家庭からの回収が低下していることから事業所等へ回収範囲を拡大し事業継続していく
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	精製機械の耐用年数を勘案しつつ、将来的な当該リサイクル事業の継続について検証が必要								

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・環境に対する効果、コスト面、精製処理した油の需要等を比較し、全市的に事業の実施方針・規模について検討する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		51399		モンキードッグ活動支援事業	担当課	朝日支所 基盤産業課			内線
		枝番							3631
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算 の		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	5	農業水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	農業費		○	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	農業振興費			D	その他事業		
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・有害鳥獣対策が緊急の課題であるため、駆除と防御事業を強化し、併せて駆除鳥獣の加工販売など活用方策について具体的に取組みます						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の市民	対象者数	533 件
	どういう状態にしたいのか (意図)	モンキードッグ出動を強化し、安心して暮らせる地域づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法 (手段)	モンキードッグの活動に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		モンキードッグ7頭の計、223回の出動があった。					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	成果指標	モンキードッグ出動回数		m ²	目標値	420	420	420
					実績値	243	223	-
		算出根拠等	10回×6ヶ月×7頭		達成率(%)	58	53	-
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-		
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
		歳出 (千円) (A)			240	210	210	
		財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
			その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源			240	210	210			
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)		450	394	394		
		受益者	出動対象町内会世帯 (B)	533	533	533		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	猿による農作物等の被害は年々増加傾向にあり、生活環境をも脅かされており、市民ニーズは急増している。			
			B (1)	ある程度のニーズがある					
			C (0)	ニーズが低い					
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	類似の事業は、他にない。			
			B (1)	一部見直しが必要である					
			C (0)	市が実施する必要性が低い					
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	C	出勤回数は少ない傾向にある。			
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である					
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	C	専門の訓練所以外にモンキードッグを育成する方法を検討中である。			
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	有害鳥獣対策における防御事業の強化は、市長公約に位置付けられ、緊急の課題となっている。			
			B (1)	ある程度効果があった					
			C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計			6	/	10	→	100点換算	60	点

<p>分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)</p>	<p>モンキードッグをさらに育成し、1町内1頭以上配置する方向で検討する。</p>
---	---

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>鳥獣被害は深刻な問題であり、早急な対応が必要であるが、モンキードッグの効果が持続するかについて検討する必要がある。</p>
---	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	連合町内会、及び農業改良組合長会等の場で、モンキードッグ育成の啓蒙を図っている。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	モンキードッグをさらに育成し、1町内1頭以上配置する方向で検討する。								

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・モンキードッグの効果について検証した上で、今後の方針について検討する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799		旧江戸街道保全事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3640
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		○	D	その他事業	
根拠計画		市指定文化財保存計画						
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値がある有形無形の伝統文化や、文化財などの資源を保存活用する。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	江戸街道は江戸時代、旅人や貨物輸送の主要な街道であった。この歴史的な街道から地域の豊かな自然、歴史や文化に触れ、自然保護及び地域資源を守るために街道保全を行う		
概要	事業の実施手法 (手段)	街道修復・草刈等の維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・前年からの事業を継承した歩道の修繕 ・歩道の草刈、伐開					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	草刈修繕		m	目標値		3,750	1,000
					実績値		3,750	-
		算出根拠等	達成率(%)			100	-	
	活動指標	歩道修繕		m	目標値	100	100	25
					実績値	25	40	-
		算出根拠等	達成率(%)		25	40	-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
補足事項								
江戸街道は時代によって呼び方が違い、ブリ街道とも云われる。その昔、富山県より当地を中継し長野県へ運ばれたことから、当町では「ブリ街道祭り」を例年開催しており、街道への認識は高い。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			980	944	500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		980	944	500		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			10	10	5	
受益者		市民(4/1現在) (B)		93,822	93,312	92,861		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・古道を含めた文化遺産の修復や維持管理に対する市民意識の向上につながっている ・地域固有の歴史文化を守り継承していく活動として地域に根付いている
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・文化財の保護と意識啓蒙を図る観点から、全市的な遺産として捉え保存活用していくべきもの
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・当事業により街道の復元も進んでおり、今後も継続して実施していく必要がある
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・地域資源保護と認識の観点から、地元業者の選定及び入札により経費削減に取り組んでいる
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・歴史的、社会的に価値ある文化資源を再認識し、保存活用していくために必要である ・事業実施後の活用方法について検討する必要がある
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なかを記入)</p>	<p>街道は広域に及ぶ歴史遺産であり、整備するエリアを拡大するとともに近隣地域が連携し相互に保存活用に取り組む必要がある</p>
---	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>整備対象とするエリアは当地域に2箇所存在し、当該年度はその内1箇所を整備した。いずれも山林地を通ることから継続した整備事業として実施できた</p>
---	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	文化・歴史遺産は重要な地域資源であり、街道は往時を偲ぶことのできる有形の文化財である。荒廃化を防止するためにも継続事業として取り組んでいく
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	街道の再踏査を実施し、整備箇所の検証を行う									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・維持管理以外に、市内外へのPR,利活用についても検討する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域振興事業補助金	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3610
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		○	D	その他事業	
根拠計画								
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域の団体	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか (意図)	市民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進する。		
概要	事業の実施手法 (手段)	市民自らが主体となって取り組む地域振興事業に対して補助金を交付する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・町内会 17件 2320千円 ・団体等 1件 680千円					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	地域づくりを実施した件数		件	目標値	25	25	25
					実績値	21	18	-
		算出根拠等	達成率(%)		84	72	-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)				-	
補足事項								
・地域の住環境を市民自らの手で維持、改善していくための活動補助として予算ベースで100%の達成率である。								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出 (千円) (A)			3,000	3,000	3,900		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源		3,000	3,000	3,900		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)		1,576	1,587	2,082		
		受益者	朝日町地域住民 (B)	1,904	1,890	1,873		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	地域の市民の手による住環境整備、文化保存に対する要望は非常に多い
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	林道の維持管理は本来市が行うべきであるが、地域住民の手による修繕事業が多い。国道、県道の環境整備については、県の事業を取り入れるべきである
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	地域の市民の自主的な手法により、地域の環境を維持していくための、活動となっている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	地域が計画した予算の内容を市の基準に合わせて精査し、改善に取り組んでいる
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	地域住民が自らの地域を改善、振興により住みよいまちづくり活動の支援事業として地域に定着している
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

<p>分析・評価で 明らかにした課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）</p>	<p>・市や地域が管理すべき施設以外の県、国の施設については対応する県の事業を取り入れて、市の負担すべきコストを見直す必要がある。ただし地域の事務的負担が大きくなる。</p>
---	---

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。</p>
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・地域で行うべき事業とそうでないものを精査し、地域環境の維持に必要なコストを適正化する。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域住民の手による環境、文化、伝統の維持保全をすすめる。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域要望対応事業	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
		枝番						3610
予算	会計	1	一般会計		特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2	総務費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1	総務管理費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9	企画費			○	D	その他事業
根拠計画								
市長公約			4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域の団体	対象者数	1,873 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域の要望に対応し住みよい環境に整える		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の要望によりきめ細かな施設修繕事業を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		5件 3,499千円					
	指標名			単位	目標・実績	H22	H23	H24
	成果指標	事業実施した数		件	目標値	11	5	20
					実績値	11	5	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
		歳出 (千円) (A)			3,902	3,499	14,000	
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			3,902	3,499	14,000	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)			2,049	1,851	7,475	
		受益者	朝日町地域住民 (B)		1,904	1,890	1,873	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	市民が要望する事業であり、住み良いまちづくり事業としてニーズは高い	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市が管理すべき施設の修繕である	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	市民が要望する事業であり、住み良いまちづくり事業として充分達成している	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	最小の費用で最大の効果を上げるよう取り組んでいる	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	A	市民が要望する事業であり、住み良いまちづくりの政策として重要性は高	
			B (1)	ある程度効果があつた			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			
合計		10 / 10		→	100点換算	100点	

<p>分析・評価で 明らかになった課題 （「A」評価にするために何が 必要なのかを記入）</p>		
--	--	--

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。</p>
---	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・地域の要望に迅速にきめ細かく対応できる事業であるため、速やかな実施を行う。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・地域の要望に迅速にきめ細かく対応できる事業であるため、速やかな実施を行う。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。									

平成24年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		核 番	土地借上料	担当課	朝日支所 地域振興課		内線
							3610
予算	会計		特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目				D	その他事業	
根拠計画							
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び競技関係者	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか (意図)	施設用地借上		
概要	事業の実施手法 (手段)	市の基準単価を上回る土地賃貸借		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・高齢者若者センター施設用地 ・市営鈴蘭シャンツェ施設用地					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24	
	活動指標	施設用地		㎡	目標値	28,454	28,454	28,454
					実績値	28,454	28,454	-
		算出根拠等	土地賃貸借契約		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	・地域特有の施設を維持するために必要である。							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
歳出 (千円) (A)			910	910	898			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			910	910	898	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)						
	受益者	(B)						

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外				
			B (1)	ある程度のニーズがある					
			C (0)	ニーズが低い					
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市有の施設として維持管理			
			B (1)	一部見直しが必要である					
			C (0)	市が実施する必要性が低い					
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外				
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である					
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	市の基準となるよう、地権者と交渉中である			
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外				
			B (1)	ある程度効果があった					
			C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計			3	/	4	→	100点換算	75	点

分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・市の基準を上回っているため単価交渉をする必要がある。
--	-----------------------------

<p>(参考)</p> <p>H23事業評価結果 (二次評価)</p>	<p>・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。</p>
---	-----------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・市の基準を上回っているため単価交渉をする必要がある。
---------------------	-----------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・市の基準に近づけるよう単価交渉をする。									

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善		拡大	○	縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。								